

## 河原田盛美における本草学的知識から 近代勧業的実践の転換に関する研究

### 研究総括期の諸成果について

研究代表者 高江洲 昌哉

本研究班は、2016年3月に終了したので、2016年度はその研究成果を公表するため、報告書の作成とフォーラム開催に充てられた期間であった。報告書は研究班メンバーだけでなく、研究活動期に開催した研究会報告者へも寄稿を求めた。その結果、高江洲昌哉・小林広一・中野泰・増田昭子・土井康弘・國吉まこも・大嶋陽一・平良次子各氏の各論稿と伊藤康宏氏の史料紹介及び南会津町の河原田家史料から辞令書と書簡（暫定）に関するデータをまとめた表、また河原田文庫の全容を理解していただくため、撮影した河原田文庫データを書き込んだCD-ROMを添えた成果報告書『神奈川大学日本常民文化研究所調査報告』第25集を2017年2月末時に刊行した。

フォーラムは、2017年3月11日に開催したが、多くの人へ関心を持ってもらうことと、河原田盛美を知っている人にも、その河原田像の再考を促す場とするため、「河原田盛美ってだれ?!」というタイトルで開催した。本フォーラムでは、研究代表の高江洲が趣旨説明と活動軌跡を報告し、中野泰・増田昭子・小林広一・伊藤康宏・小野まさ子・土井康弘・大嶋陽一各氏の報告と、南会津の視座から河原田盛美を理解するため、田崎公司氏・河原田宗興氏をコメンテーターにお招きした。また、南会津町の河原田家史料を現在管理している石田正子さんの挨拶の場を設けた。限られた時間であったが総合討論を通して今後の課題を確認することもできた。



写真1 第1回共同研究フォーラム「河原田盛美ってだれ?! ——会津出身水産官僚の軌跡から地域振興の視点と活動を考える——」高江洲昌哉

今回のフォーラムを通して、便宜的に付けた河原田の知識の特色「本草学的知識」を批判的に検討することができ、その知識の特色を得るための切り口について諸報告から視座を深めることができた。また、河原田理解を深めるため、諸活動の総体的把握、彼の地元での活動を理解するための「豪農ネットワーク」理解の必要、彼が育った地域についても理解を深める必要があることを確認することができた。また、本報告書では辞令書・書簡データを載せているが、著作目録が未掲載であったことの不備を指摘する発言があった。本研究班の活動は、これまで個別に言及されてきた河原田を総体的に捉える最初の試みであり、不十分であるが、河原田に関する資料の大枠についても議論できたことが、本研究班の成果といえる。活動総括期の実践（成果論集やフォーラム）を通して、今後の課題に対する取り組みを整える必要を感じた。

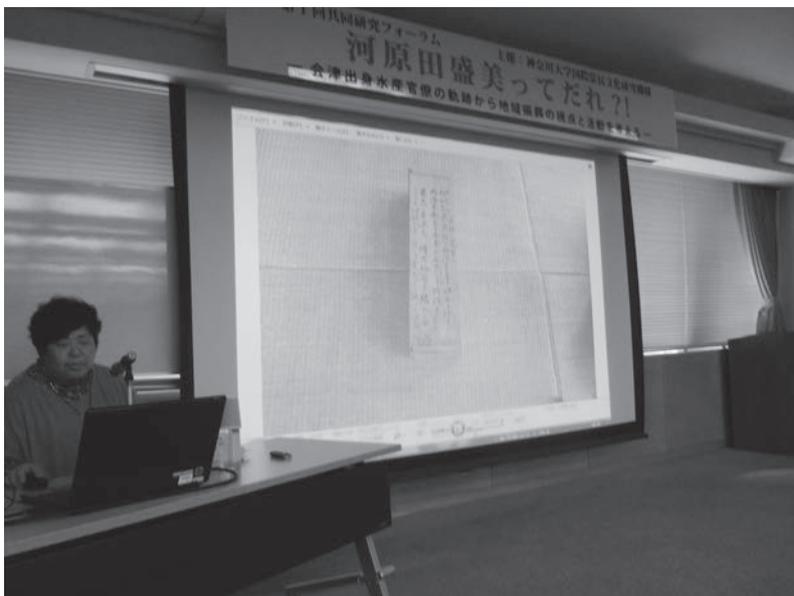


写真2 小野まさ子氏



写真3 大嶋陽一氏